

近畿地方の万葉集と風景画シリーズ（第四十回）

「斑い鳩か」

斑鳩の 因可よるかの池の 宜よろしくも 君を  
言はねば 思ひそ我がする。

作者未詳（巻十二・三〇二〇）

（解説）斑鳩よるかの因可よるかの池、その「よる」ではないが、よろしく（好ましいように）あなたのことを世間の人と言わないので私は心配しています。

この歌は、斑鳩の因可という池を題材に、恋の物思いを讀んだものです。

ここに詠まれる「斑鳩」は奈良盆地の西北部に位置する現・奈良県生駒郡斑鳩町付近を指していると考えられています。斑鳩は聖徳太子が推古十三年（六〇五）に宮を置いた場所であり、法隆寺をはじめとした聖徳太子ゆかりの御寺があることで有名です。その斑鳩には因可という名前の池があったらしい。斑鳩には今でもいくつかの池があるがどれかわ不明であるが、法隆寺の東大門をでて

北の突き当りにある天満池のことであろうかとの説がある。

その土手にたつと右手に法隆寺の伽藍が見えた。

法隆寺は推古天皇(第三十三代)と聖徳太子の発願により推古天皇十五年(六〇七)に開いたと伝わる。国宝・重文などの建物、仏像、工芸品など超一級の仏教文化の宝庫であり。平成五年(一九九三)に日本で初めてユネスコの世界文化遺産に登録された。

(参考文献) 山崎しげ子著「万葉を歩く」岡野弘彦著「万葉の歌」日本古典文学大系「万葉集」奈良県「はじめての万葉集」

(写生地) 天満池の土手から世界最古の木造建築で我が国最初の世界文化遺産として登録された法隆寺と背景に奈良県と大阪府の境界に位置する葛城山(標高九五九m)を描く。(池田杏花)

